

PRESTO® A30

6Lのガラス反応容器を -10 °C から +20 °Cに加熱運転

目的

このケーススタディのテストでは、PRESTO® A30と6Lのガラス反応容器を接続して、加熱試験を行っています。PRESTO® A30 は2mのメタルチューブで接続されています。PRESTO® A30 は、-10°Cから+20°Cへの加熱運転を行っています。



環境

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	230 V / 50 Hz

試験条件

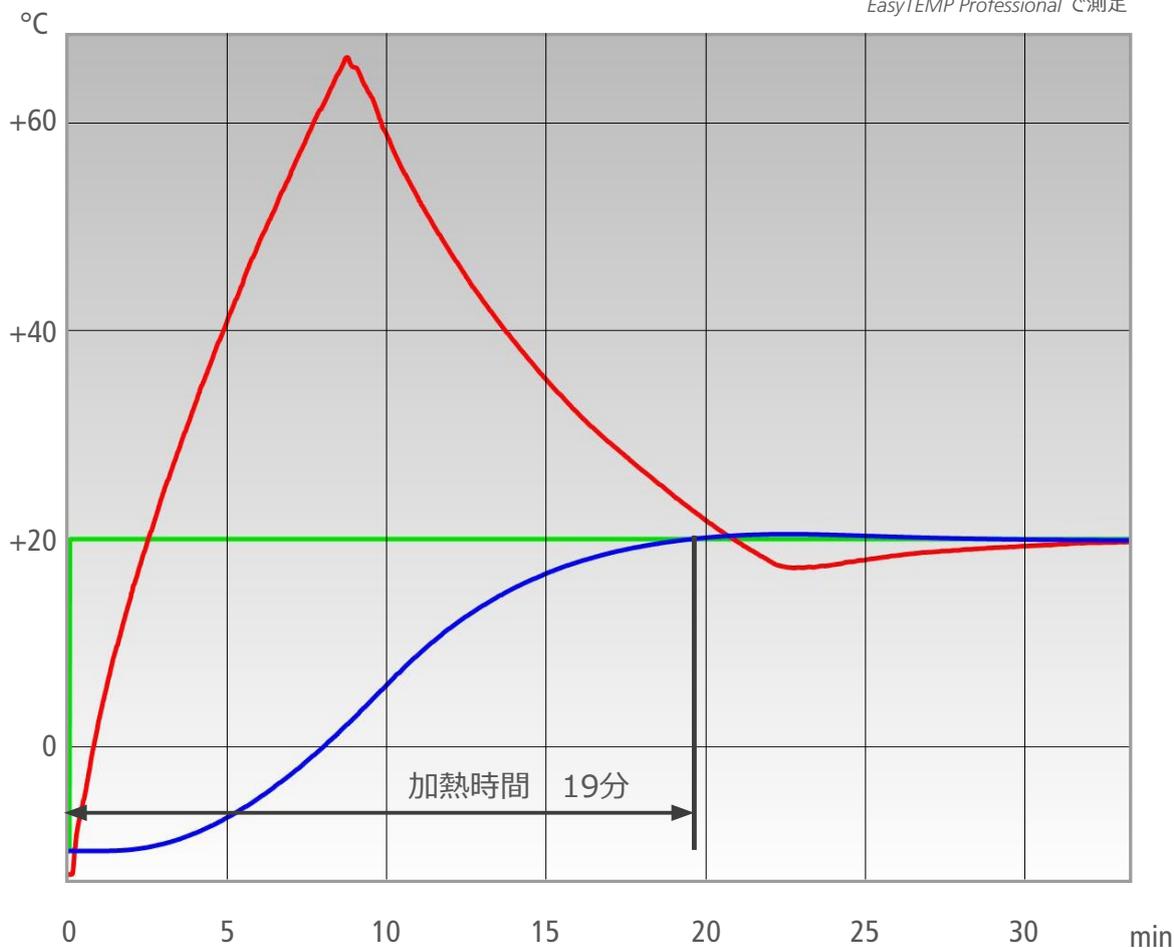
使用機種	PRESTO® A30
冷却能力	+20 °C 0.5 kW 0 °C 0.4 kW -20 °C 0.2 kW
加熱能力	2.7 kW
バンドリミット	設定していません
ポンプ圧	0.5 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL60
反応容器	6Lガラス製反応容器 (QVF) (容器内にはユラボ社製 サーマルHL60を5L充填しています)
ジャケット容量	4.5 L
温度制御	外部制御(ICC)



試験結果

PRESTO®A30の加熱運転では、-10℃から+20℃へ19分でオーバーシュートなしで到達しました。

EasyTEMP Professional で測定

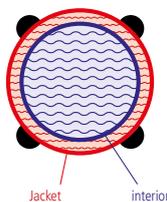


- 設定温度
- ガラス反応容器内温度
- ガラス反応容器ジャケット温度

その他機能

容器の保護：
“バンドリミット”機能
(上記参照)で、
容器内部温度と
ジャケットの温度差を
制限して設定する事が
できます。

Profile of reactor



その他機能

無償版の EasyTEMP
ソフトウェアを使用
することにより、
PCで装置を
コントロールしたり
温度データを画面上に
表示させることが
可能になります。

EasyTEMP

